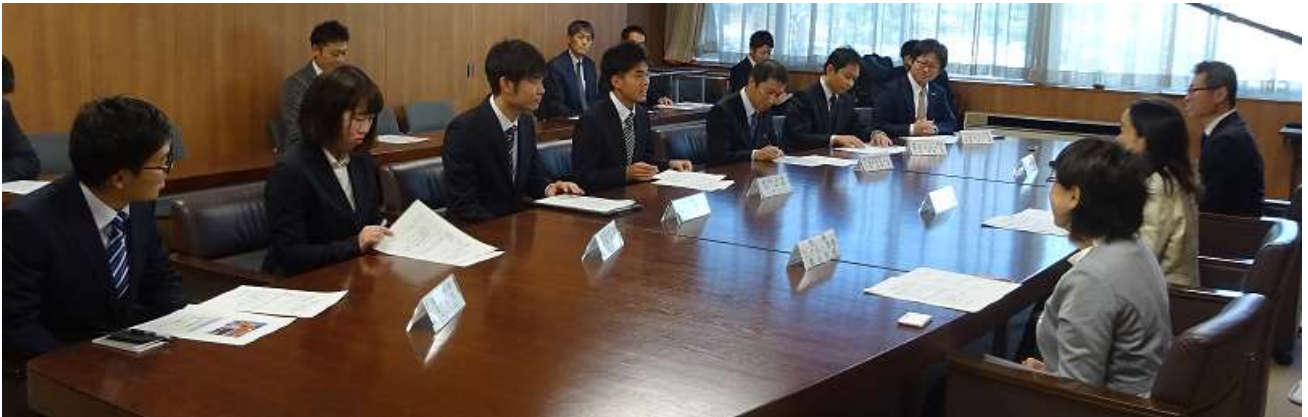


「大学生海外インターンシップ支援事業」に参加した学生の報告会

大学生海外インターンシップ支援事業として、県内企業の海外事業所でインターンシップを経験した長野県内の学生4名が11月12日、中島副知事に成果報告をするため、長野県庁を訪問しました。

県庁を訪れたのは、(株)エーシーエ設計のミャンマー事業所に参加した信州大学3年の薄葉千夏さん、(株)南信精機製作所のベトナム事業所に参加した長野大学3年の辻哲也さん、NiKKi Fron(株)のタイ事業所に参加した信州大学3年の乾拓海さんと野口哲矢さんの4名です。また、受け入れていただいた(株)南信精機製作所の片桐社長、(株)エーシーエ設計の小林副社長、NiKKi Fron(株)の伊藤上席執行役員にもご同席頂きました。



本事業は、県内高等教育機関の魅力の向上及び、学生が海外へ目を向け活躍の場を求める機運を醸成してグローバル人材の育成を図るため、産学官で連携して始めた事業で、今年で3年目となります。今年度は14名（信州大学12名、長野大学2名）の学生が、8企業9事業所4カ国で、8月～10月にインターンシップを実施しました。

今回報告に訪れた4名の学生がお世話になった3企業以外にも、(株)近藤紡績所のベトナム事業所、(株)デリカのタイ事業所、野村ユニソン(株)の台湾事業所、(株)ユウワのベトナム事業所、ワールド開発工業(株)のミャンマー事業所でも学生を受け入れて頂きました。

学生は、応募した動機や成長したことなどを、持参した資料を基にして副知事に報告しました。

副知事から、今回の体験による長野県企業の印象の変化について聞かれ、学生からは「製造業は国際化とは無縁と思っていたがグローバルな活動をしていることが実感できた」とか「営業という職業には暗いイメージを持っていた



が、営業の補助業務をさせていただき実際にはスケールの大きなやりがいのある仕事だと分かった」、「学生の勉強とは違い仕事には責任感が必要だと感じた」、「長野県の企業を知らなかったが、新しい試みが続けようとしていることが分かり興味が湧いた」などの話が出ました。

また受け入れていただいた企業の方から「日本人の良さをインターンシップ生から教わったと現地の社員から聞いたし、日本人スタッフも学生を受け入れることで良い勉強になったと言っている」などのお話を頂戴しました。

最後に、中島副知事から「日本の当たり前が海外では当たり前ではないと報告してくれた学生のように、それぞれ新しい学びがあり、また長野県企業の魅力も体感いただいたと思う。是非、友人たちや周りにも発信して下さい。」と学生に話し、記念撮影をして報告会を終了しました。